

平見 高隆さん（特任教授）
広島大学 学術・社会連携室



2020年8月23日（日）中国新聞 SELECT 掲載

※中国新聞社の許諾を得ています

研修員来日 伝統を学ぶ

広島大産学・地域連携センターは2017年から、国際協力機構（JICA）研修員としてメキシコの人材を受け入れている。背景の一つに、広島とメキシコの友好関係が急速に深まってき



熊野町役場で熊野筆について話を聞くメキシコからの研修員

たことがある。12年のマツダのメキシコ工場建設、14年の広島県とメキシコ・グアナフアト州との友好提携といった具体的な形での交流が進んでいる。広島大はグアナフアト大、メキシコ国立工科大、メキシコ国立自治大といった主要大学と国際交流協定を結んで協働し始めている。

このような状況で、広島地域にイノベーションエコシステム（新たな産業体系を確立し共存共栄していく仕組み）を形成していく大学の活動と、メキシコの将来を担う人材にエコシステム形成についての一貫した教育を提供したい JICA の思いが一致した。

17年と19年に各7カ月間、メキシコから来た計8人の JICA 研修員は、広島大東広島キャンパスで日本でのエコシステム形成について調査・研究をした。例えば日本の伝統産業のエコシステム形成に関し、熊野筆や川尻筆の歴史的な背景や役割をインタビュー調査してもらった。広島のお好み焼きや温泉なども満喫し、日本のファンになってくれたようだ。日本の学生からも「親しみやすく、メキシコの話聞いて楽しかった」との言葉が聞かれ、国際交流としても成果が上がっていると感じる。

帰国後、ベンチャー企業を立ち上げた研修員も出始めた。今後も継続的に研修員を受け入れていく予定で、研修員による広島やメキシコでのエコシステムの形成を期待したい。